

教育学部の地域連携事業—地域連携特別委員会の改廃にあたって—

岩手大学では、「岩手の“大地”と“ひと”と共に」をスローガンに、教育・研究と並んで社会貢献・地域貢献を大学が取り組むべき重要な使命・役割として位置づけ、教育研究の成果を地域社会に還元し、あわせて、地域社会のニーズに応える地域振興をめざしてさまざまな取り組みを進めてきました。大学全体では、平成26年度から、知的財産を産業界や地域住民に還元するために、これまでの組織を再編して、新たに地域連携推進機構が設立され、平成28年度からは、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の設立が予定されています。

教育学部においては、平成14年度から、教育学部と岩手県教育委員会、岩手県内の自治体と協力して「地域連携事業」に取り組み、社会貢献・地域貢献をめざしてきました。平成16年には、「教育学部地域連携特別委員会」を設置し、学部全体で取り組むための体制をつくって「地域連携事業」を進めてきました。以下は、平成27年度に教育学部がおこなった「地域連携事業」の概要をまとめたものです。

「地域連携事業」は、(1) 教員研修事業、(2) 学生派遣事業、(3) 生涯学習支援事業、の三つに大別されます。

まず、教員研修事業は、主に学校現場の先生方に対する支援の取り組みで、①10年経験者研修支援事業（夏季15、冬期15、計30講座、受講者321名）、②現職教員研修会・講演会の開催（3回）、③学校臨床支援事業（不登校児童生徒に関わる個別相談会）、④競技力向上支援事業、武道等指導充実・資質向上支援事業などを実施しました。

次に、学生派遣事業は、学校現場と連携しながら、学生の実践的指導力の育成（実地教育）を図ろうとするもので、①地域教育実習（西和賀町・葛巻町）、②スクールトライアル（県内4大学との連携事業）、③ボランティア・チューター事業（紫波町、矢巾町、雫石町との共同実施事業、計7校47名参加）、④スクールインターンシップ事業（教員研修留学生等による県内の小・中・高校での授業・交流）などを実施しました。

そして、生涯学習支援事業は、自治体からの要請を受け、教育学部教員の研究内容・成果を地域住民の生涯学習の内容として活用していただくことを意図したものであり、平成27年度は、花巻市において出前講義（5講座：受講者155名）を、盛岡市については、交流協定に基づく公開講座（4講座：受講者113名）への講師派遣をおこないました。

それぞれの具体的な内容については、以下の報告をお読みいただければと思います。

最後になりましたが、これまで、地域連携特別委員会で管轄していた「地域連携事業」は、再編なった教育学部附属教育実践総合センター等で引き継ぐこととなります。これまで「地域連携事業」を実施するにあたり、県内の教育関係諸機関・団体等から多大なご支援・ご協力を賜って参りました。心から感謝申し上げますと共に、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

平成28年2月末日

岩手大学教育学部地域連携特別委員会
委員長 今野日出晴

I. 教員研修事業

(1) 10年経験者研修支援事業

平成27年度 教職経験者10年研修 受講者数一覧

◆開講講座30講座(夏季15講座、冬季15講座)

岩手大学教育学部

| 講座 番号 | 講 師 | 講座名 | 期 間 | 受講 者数 | 校種別受講者内訳 | | | | |
|----------|-----------|---------------------------------------|------------------|----------|----------|----|----|-----|----|
| | | | | | 幼 | 小 | 中 | 高 | 特支 |
| 9 | 中村好則 | GeoGebraを活用した数学指導の改善(初級編) | 7月29日(水) | 4 | | | | 3 | 1 |
| 11 | 武井隆明 | 理科(原子・分子の捉え方) | 7月29日(水) | 6 | | | 2 | 4 | |
| 21 | 山崎友子 | 発信のための英語指導～内容中心授業とfocus-on-formを取り入れて | 7月30日(木) | 10 | | | 5 | 5 | |
| 15 | 澤村省逸 | ウェイト・トレーニングの指導 | 7月31日(金) | 12 | | | | 11 | 1 |
| 16 | 鎌田安久・栗林 徹 | ゴール型スポーツ(サッカー・バスケットボール)の指導のコツ | 7月31日(金) | 10 | | 8 | 1 | 1 | |
| 5 | 遠藤匡俊 | 地図を用いた地理的教材の指導 | 8月3日(月)～4日(火) | 11 | | 3 | 4 | 1 | 3 |
| 17 | 清水 将 | 体育授業の指導と評価の一体化(体育・運動領域) | 8月5日(水) | 3 | | 1 | | 2 | |
| 27 | 木村直弘 | 音風景から環境教育へ | 8月7日(金) | 10 | | | | 9 | 1 |
| 1 | 藤井知弘 | 国語の単元創り入門 | 8月10日(月) | 7 | | 7 | | | |
| 26 | 宇佐美公生 | 哲学教育の視点から道徳教育を考える | 8月10日(月) | 26 | | 4 | 2 | 19 | 1 |
| 2 | 大野眞男 | 日本語の未来 | 8月11日(火) | 8 | | 2 | 1 | 4 | 1 |
| 19 | 宮川洋一 | 日本発ロボットプログラミングセットを教材としたプログラミング教育 | 8月11日(火) | 9 | | | 1 | 7 | 1 |
| 24 | 山本 奨 | 不登校状態の改善に有効な教師による支援方法 | 8月11日(火) | 44 | | 7 | 9 | 18 | 10 |
| 25 | 藤井義久 | 予防・開発的教育相談活動の理論と実際 | 8月18日(火) | 27 | | 1 | 6 | 10 | 10 |
| 28 | 岩木信喜 | 教育心理学(記憶と学習に関する最近の実験研究を中心に) | 8月21日(金) | 33 | | 2 | 4 | 17 | 10 |
| 6 | 菊地 洋 | 法教育の視点から考える社会科(公民分野)の指導 | 12月21日(月) | 2 | | | | 2 | |
| 29 | 阿久津洋巳 | 教員に必要な統計知識 | 12月21日(月)～22日(火) | 11 | | | 1 | 10 | |
| 14 | 川口明子 | はじめての日本の音楽・アジアの音楽の指導:からだで学ぶ | 12月24日(木) | 4 | | | 1 | 3 | |
| 22 | ホール ジェームズ | 授業で活用できる英語学習タスク | 12月24日(木) | 5 | | | 1 | 3 | 1 |
| 20 | 天木桂子 | 他教科との関連から学ぶ楽しい被服学 | 12月24日(木) | 2 | | | | | 2 |
| 3 | 藪 敏裕 | わかりやすい漢文指導に向けて | 12月24日(木)～25日(金) | 6 | | | | 6 | |
| 4 | 菊地 悟 | 中高国語科授業のためのメディア教材活用について | 12月25日(金) | 4 | | | | 3 | 1 |
| 8 | 大河原清 | 学習内容の文表現を効率的に覚えてもらう指導法 | 12月25日(金) | 15 | | 1 | 1 | 10 | 3 |
| 12 | 菊地洋一 | 小中学校理科で柱となる「粒子の概念」をどのように扱うか? | 12月25日(金) | 1 | | | | | 1 |
| 7 | 安井もゆる | 最近の研究動向を反映した西洋(古代)史の授業 | 12月25日(金) | 2 | | | | | 2 |
| 18 | 清水 将 | 体育授業の指導と評価の一体化(体育理論) | 1月4日(月) | 5 | | | 1 | 4 | |
| 30 | 名古屋恒彦 | 子ども主体の生活の実現を目指す特別支援教育 | 1月4日(月) | 24 | | 5 | 2 | 5 | 12 |
| 10 | 本田 卓 | 数学的思考の意味を、微積分学を用いて考える | 1月7日(木) | 4 | | | | 4 | |
| 31 | 藤井知弘 | 授業創りの為の教育学からのアプローチ | 1月7日(木) | 10 | | 7 | 2 | | 1 |
| 23 | 犬塚博彦 | 英語音声の効果的な発音指導法の研究 | 1月8日(金) | 6 | | | | 6 | |
| 受講者数 計 | | | | 321 | 0 | 48 | 44 | 169 | 60 |
| (夏季) | | | | 220 | 0 | 35 | 35 | 111 | 39 |
| (冬季) | | | | 101 | 0 | 13 | 9 | 58 | 21 |

(2) 現職教員研修会の開催

1) 教育講演会（学部講演会）

日 時：平成27年12月19日（土）13：30～15：00

場 所：岩手大学総合教育研究棟（教育系）2階北桐ホール

テーマ：津波に襲われた小学校で子どもを支えた4年間の軌跡

講 師：宮古市立宮古小学校教諭 坂下 大輔 氏

参加者数：32名

2) 平成27年度第1回教員研修会

日 時：平成27年6月20日（土）12：30～15：30

場 所：岩手大学学生センター G1大講義室

講 話：岩手の教員に期待すること

講 師：岩手県教育委員会教職員課主席経営指導主事兼小中学校人事課長

佐藤 進 氏

参加者数：75名

3) 平成27年度第2回教員研修会

日 時：平成28年2月6日（土）12：30～15：40

場 所：岩手大学教育学部総合教育研究棟 E24, E26

題 目：対話と思考による道徳教育

講 師：立教大学文学部教育学科教授 河野 哲也 氏

参加者数：90名



第1回教員研修会



第2回教員研修会

(3) 学校臨床支援事業

事業名：平成27年度 不登校児童生徒にかかわる個別相談会

事業主催：盛岡市教育委員会

目的：回復への手立てが見えない不登校児童生徒の状況について、関係機関と情報の共有化を図り、対応や指導の在り方について協議し、回復への方途を探る。

内容：盛岡市上田公民館会議室を会場に、各小学校および中学校の担当者（1～2名）、市教委担当（1名）、本学教育学部山本奨教授の三者による事例検討を行った。

日程：平成27年 6月11日（木）

6月18日（木）

10月29日（木）

10月30日（金）

11月 5日（木）

実績：8校（小学校3校、中学校5校）の15事例について検討した。

(4) 体力向上支援事業

競技力向上支援事業

岩手国体での成功を目指し、強化競技者を中心に大会・合宿等で指導及び助言を行う。

○10月2日～10月6日 国民体育大会における支援

○11月21日～11月22日 岩手陸上競技協会の強化事業における支援

○1月26日～1月29日 岩手陸上競技協会主催（日本陸連共催）の強化事業における支援

武道等指導充実・資質向上支援事業

県内の小・中学校の教員の資質向上及び授業改善を目指し、授業実施校における陸上運動・陸上競技授業の指導・助言及び効果的な走運動の指導法に関する講義を行った。

○陸上運動系指導充実・資質向上支援事業 地区別授業改善研修会

提案授業 陸上運動系「走運動」

参加者 各地区小学校・中学校から1名ずつ

講師 清水茂幸 教授、上濱龍也 教授

盛岡地区 10月26日 盛岡市立大宮小学校 実施学年 中1

中部地区 11月20日 花巻市立東和小学校 実施学年 小1

県南地区 10月 1日 一関市立南小学校 実施学年 小6

沿南地区 10月 6日 陸前高田市立第一中学校 実施学年 中1

宮古地区 10月 8日 山田町立山田中学校 実施学年 中1

県北地区 9月25日 久慈市立久慈小学校 実施学年 小1

Ⅱ. 学生派遣事業

(1) 地域教育実習

岩手県の学校教育の特徴である小規模・複式学校において教育実習を行うことによって、小規模校をとりまく地域の実態や課題、小規模校と家庭・地域のつながり、小規模校教育の有する特質とその役割、複式授業の実際、小規模校における教師の仕事と子どもの実態、等々に対する総合的・実際的な見識を養う。

日程及び実習先等

西和賀町 9月28日(月)～30日(水) 参加学生17名

引率教員：藤井，武井，田中，土屋

28日 沢内中 湯田中 沢内小 湯田小 授業参観，授業実践

29日 沢内中 湯田中 沢内小 湯田小 授業参観，授業実践

30日 沢内中 湯田中 沢内小 湯田小 授業参観，授業実践

宿泊地 沢内バーデン

葛巻町 9月28日(月)～30日(水) 参加学生24名

引率教員：立花

28日 小屋瀬中 授業参観 クラブ参観

29日 五日市小 授業参観 児童との交流(学生が企画する)

30日 研修のまとめ，体験研修

宿泊先 グリーンテージくずまき

(2) スクールトライアル

県内の連携大学(岩手大学，岩手県立大学，富士大学，盛岡大学)に在籍する教員志望の大学生を学校に派遣し，学校における様々な活動を支援するとともに，大学生に対して実践経験の場を提供することで，学校教育に関する理解を深め，教員になるための意識の高揚を図る。

派遣先 盛岡市，花巻市，北上市，特別支援学校

参加学生 前期 21名，後期 5名 合計 26名

(3) ボランティアチューター

ボランティアチューターは，学生による学校体験と学校支援を目的とした大学と3自治体が共同で実施している事業である(自治体によって名称が異なる)。

実施教育委員会

(1) 雫石町(学習支援ボランティア)，(2) 紫波町(ワン・バイ・ワンサポート)，(3) 矢巾町(ラーニングサポート)

ボランティアチューター

1 参加学生数

(1) 雫石町

| | 派遣人数 (通年, 前期のみ, 後期のみ) |
|-----|--------------------------|
| 雫石小 | 20人 (通年7, 前1, 後12) |
| 雫石中 | 0人 (通年0, 前0, 後0) |
| 合計 | 20人 (通年7, 前1, 後12) |

(2) 紫波町

| | 派遣人数 (通年, 前期のみ, 後期のみ) |
|-------|--------------------------|
| 日詰小 | 4人 (通年4, 前0, 後0) |
| 古館小 | 6人 (通年2, 前2, 後2) |
| 赤石小 | 1人 (通年0, 前0, 後1) |
| 紫波第一中 | 4人 (通年0, 前4, 後0) |
| 紫波第三中 | 0人 (通年0, 前0, 後0) |
| 合計 | 15人 (通年6, 前6, 後3) |

(3) 矢巾町

| | 派遣人数 (通年, 前期のみ, 後期のみ) |
|------|--------------------------|
| 矢巾中 | 6人 (通年5, 前0, 後1) |
| 矢巾北中 | 6人 (通年5, 前0, 後1) |
| 合計 | 12人 (通年10, 前0, 後2) |

(4) スクール・インターンシップ (GSIP)

2015年度スクール・インターンシップ・プログラム

<はじめに>

教員研修留学生在が前期3名、後期3名の他、交換留学生在前期4名、後期1名が参加し、教育学研究科正規生4名が支援にあたった。内容は、スーパー・サイエンス・ハイスクールとしての指定校である岩手県立水沢高等学校・釜石高等学校で英語による研究発表会への参加、盛岡市内の公立中学校と高校での定期的なインターンとしての勤務、教員研修プロジェクトへの参加と盛りだくさんであった。本稿では、その内容を報告し、成果について述べる。

<参加者>

- 教員研修留学生在：Eugenia Menjivar (エル・サルバドル)、Lita Masyri'ah (インドネシア)、
Oulayhpone Dethkongxay (ラオス)、Edwin Portillo (エル・サルバドル)
- 交換留学生在：Joseph D'Anne (米国)、Tyler Gilbert (米国)、Oddný Sigmundsdóttir (アイスランド)、
Stephanie Varga (米国)
- 正規生：工藤卓大、田中綾乃、Nesmes Aurore, 孫潔

<定期的なインターンシップ>

定期的なインターンシップは、盛岡第一高等学校(平賀信二校長)に前期1名・後期1名、盛岡市立城東中学校(吉田昌陽校長)に前期1名・後期1名を受け入れていただいた。学部の交換留学生在は、英語の指導補助員(ALT)として勤務し、研究科の教員研修留学生在は、ALTという補助員としての勤務以外に、単独で教案を作成し授業を行うこともあった。両校ともに、校長先生をはじめとし先生方に打合せから授業後の助言まで大変丁寧で親切にご対応いただいた。研修生にとり、岩手の教育を直接に体験する機会が暖かい思い出となった。また、研修生の授業の一つは thinking skills を育成するという目的で構想された授業であり、研修先の先生方にも参考となり、双方に有意義なインターンシップとなったと思われる。(教案は付録を参照されたい。)

<不定期なインターンシップ>

○スーパー・サイエンス・ハイスクールの英語発表への参加

スーパー・サイエンス・ハイスクールである水沢高校の地元企業見学の英語ポスター発表、釜石高校の課題研究成果のポスターを使つての英語発表とパワーポイントを使つての英語発表会と合計3回参加した。高校生の発表を聞くこと、英語で質問をすることがその役割であった。事前に、高校生から英語を引き出すための質問の仕方について検討して臨み、積極的に内容の濃い英語でのプレゼンテーションを目標にすることができた。高校側からも高校生の動機付けとなったこと喜んでいただいた。

○災害をテーマとした英語教員研修プロジェクトへの参加

平成27年度教員研修センター採択事業「Discover-Our-Town Project による「合科型内容中心英語教育」の実践的研修モデル開発～岩手県沿岸の被災地の高校において～」の講座に20名の留学生在が参加した。教員研修留学生在は定期的に参加し、授業実践も行った。内容は、日本人学生による授業の観察・記録、日本

人高校生によるポスター発表の聞き役、災害をテーマとした英語授業のTTであった。その様子を示す写真は、プロジェクトで作成した英文カレンダー“Values of Miyako Calendar 2016”に掲載されている。



宮古工業高校での英語授業



宮古高校でのポスターセッション

○山田町立大沢小学校の全校表現劇『海よ、光れ』

山田町立大沢小学校の全校表現劇『海よ、光れ』の参観の機会を設けた。大勢の地域住民が心待ちにする恒例行事である。今年度は11月1日に一般に公開して開催された。この教育活動の参観を実施した。多くの留学生が10月に来日し、岩手大学での勉強が始まってまだ1ヶ月という時期であり、日本語が挨拶程度という留学生もいたが、劇という形式であり、また、極めて完成度が高いものであったため、だれもが感動を感じるものであった。小学生が同じシナリオを長い間演じ続け、伝統を受け継いでいることを学生は驚きをもって受け止めた。大沢小学校には、校内の見学や事前練習の見学もさせていただいた。留学生の感想は、日本人学生が英語のポスターにし、教育学部内に掲示した。山田町立大沢小学校の子ども達の歌声で始まる「海よ、光れ」は、来日したばかりの留学生に、今年も日本の教育に対する強烈な印象を与えることとなったことがわかる。さらに、昨年10月に来日した教員研修留学生にとっては、2回目の参観となった。1回目の感動がさらに深まったことがレポートからうかがわれる。エル・サルバドールからの教員研修生エウさんのレポートを紹介しよう。三陸沿岸の子ども達が逆境にくじけることなく、生きることそして生きる場の価値を見出していること、また、そのような教育活動を行っておられる教員への尊敬と感謝の念が書かれている。

(レポート)

Eugenia Menjivar

We visited Osawa Elementary School to watch 海よ光れ. This is a very impressive musical that the school has been performing for many years. This plays gets all the students of the elementary school involved to ensemble a high quality musical. For me, it was the second time I had the opportunity of attending. I must say this time it was even more impressive than the year before that. I think I got a deeper perspective of this experience.

We arrive several minutes before, and we were able to walk a little around the school. I was able to see the computer room, the library and the music room. Amazingly, the computer room and the library were small but they had everything necessary for students. The music room, however, was pretty large and full of instruments and space. I remember thinking, “well, this explains why this performance has the quality it has.” Another feature the school hall

had was a bulletin board with Book Recommendations by both Teachers and Students. This impressed me the most, I must say; because students were given the opportunity to express their opinion in terms of literature. This is real evidence that students' opinions are so valuable that they deserve a space in the bulletin board. This bulletin board made me smile greatly.

Afterwards, we went outside to see the students warm up for their performance. They were practicing how to project their voices. I love seeing the teachers encouraging the children before the performance. I truly believe they are the ones responsible of this play's success. Teachers are the ones who inject enthusiasm to students and guide them to doing great things.

It was soon time for the performance, and once again it was great! I remember last year performance clearly, and I could see how performers have changed, and grown. I even remember that the student playing the principal of the school, this year, changed his "move" when he got the squid as a present. For me, this experience is one of a kind for everyone involved in it, either as an organizer, a performer, or a spectator. For the ones responsible of organizing every single section from the position students must be in, to the last detail of the costume must feel proud when seeing this play come to life. For the performers, it must be great to understand how important each one of the roles is and how all of them, together, send this unique message to others of how adversity must never be an excuse for giving up. I really hope students get the chance to realize they are making a difference in other people's lives as they learn all these lessons themselves. And as for the spectators, it is just a delight to be part of this experience. First, we get to see students take a negative experience and transform it into an educational one; not only for them but for everyone else. Also, it is very evident all the values they have acquired by just preparing this performance: discipline, respect, responsibility, cooperation, empathy, among so many others. Finally, the message this play transmits is undoubtedly the most important of all: "How to respect and appreciate the ocean as a source of living (Tyler Gilbert 2014)."

As I was watching the video an American friend prepared about this performance, last year, I couldn't help feeling blessed. He mentioned this experience was one in a life time; and immediately after I thought, "Wow! I got the chance to experience this performance not once in a life time, but twice. Now that can only be called a Blessing."

<おわりに>

近年、スクール・インターンシップ・プログラムを定期的なものだけでなく不定期なものを組み合わせるようになっている。地域の教育活動に学生が関わるという本プログラムにより、地域の教育機関との連携の機会が増え、地域の学校が単発的な行事への参加を望まれることも増えてきた。参加学生のレポートから、この組み合わせによって岩手の教育の優れた教育実践に触れることができ、教育を多面的に捉える機会となり、深く心に残るものとなったことが伺われた。

付録

LESSON PLAN

DATE: 22 February, 2016

CONCEPTUAL CONTENT: Critical Thinking

OBJECTIVE(S):

1. To recognise reasoned arguments or flaws in them in order to select believable explanations.
2. To understand and clarify key terms and expressions in order to analyse and evaluate evidence to be able to infer, deduce, and draw conclusions

INTRODUCTION/ PRESENTATION

Approximately 10 minutes

1. Welcome students and start the class by explaining that today they will have a class on Thinking Skills. Briefly explain the class is to develop critical thinking in a fun way.
2. Next, explain to students that today they will be working on solving a case, as if they were investigators. Then, ask students to think about the following terms and what their meanings are:

- crime scene
- investigator
- murder
- stabbed

3. Elicit from students a brief explanation. Then, quickly, ask them to match these words with their correct definitions.

- crime scene a detective responsible of a case
- investigator attacked with a knife
- murder a place for an illegal action happens
- stabbed a crime where someone is killed

4. Then match:

- crime scene a detective responsible of a case
- investigator attacked with a knife
- murder a place for an illegal action happens
- stabbed a crime where someone is killed

DEVELOPMENT

15 Minutes

1. Hand out worksheets to each student and ask them to complete the matching of the key words studied at the beginning of the class.
2. Next, explain to students we will work together on a typical thinking skills exercise. First, students will be explained the exercise consists of a series of evidence taken from a crime scene. We'll start by reading each evidence source. After reading each source, we'll discuss a little.
3. After each of the five sources are read and discussed students will proceed to complete the question/answer question in their worksheet.

10 Minutes

4. Go over each of the four questions and ask students to work in groups of four in order to complete their work sheet.

10 Minutes

5. Take turns answering the questions and sharing them with the class.

ATTITUDINAL ACCOMPLISHMENTS:

Through this class students will demonstrate interest in understanding the evidence being presented in order to solve a crime case.

ASSESSMENT:

As students are listening and following the reading there will be some follow up questions to make sure students understand the vocabulary and the sequence of events.

Monitor students as they are working in groups completing their worksheet.

Motivate students as they are presenting their theories to the class.

RESOURCES:

1. For this lesson, students will use exercise 1 of Paper 23/4 of a Thinkinking Skills: Critical Thinking Exam of 2013. (see the next page)

<http://www.cie.org.uk/programmes-and-qualifications/cambridge-international-as-and-a-level-thinking-skills-9694/past-papers/>

2. Also, they will complete a worksheet, one worksheet per student.

NOTES:

Due to the difficulty of the language of the original exercise, it was simplified with the aid and supervision of the class teacher.

Thinking skills: Critical Thinking

Exercise 1 (省略)

(山崎友子)

Ⅲ. 生涯学習支援事業

(1) 花巻市出前講座

事業名：平成27年度岩手大学教育学部出前講座

事業主催：花巻市

目的：本学が有する高等教育機関の能力を活用した市民向けの生涯学習講座を開設し、もって、豊かな人間性とまちづくりに資する。

内容・日程・実績：下の表のとおりであった。また、本年の共通テーマは、「まなび発見塾～暮らしわくわく講座～」であった。

| 実施日 | | テーマ | 担当者 | 参加人数 |
|---------------|-----------|--------------------------------|-------|------|
| 平成 27 年 | 11月24日(火) | 「誰でもできる健康づくり」～生涯健康で過ごすために～ | 清水茂幸 | 31 |
| | 12月9日(水) | 「着装の心理学」～快適な衣生活をおくるために～ | 天木桂子 | 28 |
| | 12月16日(水) | 「みちのく歴史探訪記」～稗貫氏と中世稗貫郡～ | 菅野文夫 | 35 |
| 平成 28 年 | 1月15日(金) | 「オペラへのいざない」～名曲を楽しもう～ | 佐々木正利 | 31 |
| | 1月27日(水) | 「宮沢賢治に触れる」～賢治作品に見られる神話的思考について～ | 木村直弘 | 30 |

(2) 盛岡市民対象公開講座

平成27年度盛岡市公民館事業への講師派遣について

| No. | 講師 | 講義テーマ | 実施日 | 開催場所 | 所属部署等 | 参加人数 (人) |
|-----|--------------------|--|------------------------------|-------------------|-------|-------------|
| 1 | 保健体育科 澤村 省逸 准教授 | 「高松の池ウォーキングにトライ!」における講話と実技指導 | 平成27年6月3日(水) 10時～12時 | 盛岡市高松公園 (高松の池) | 上田公民館 | 30人 |
| 2 | 美術教育科 煤孫 康二 准教授 | 「親子スケッチin 高松公園」における絵画指導 | 平成27年6月20日 (土) 10時～12時 | 盛岡市高松公園 (高松の池) | 上田公民館 | 25人 |
| 3 | 社会教育科 菅野 文夫 教授 | 「平泉藤原氏と源義経」について みちのくに黄金と浄土の都を築いた奥州藤原氏と、悲劇の英雄と呼ばれる源義経にスポットをあてて | 平成27年6月12日 (金) 10時～12時 | 都南公民館 第1研修室 | 都南公民館 | 40人 |

平成27年度学びの循環推進事業（専門コース）（盛岡市民対象講座）への講師派遣について

| No. | 講師 | 講義テーマ | 実施日 | 開催場所 | 講座主催者 | 参加人数 (人) |
|-----|--------------------|-------------|------------------------------|------------------------|------------------|-------------|
| 1 | 社会科教育科 菊地 洋 准教授 | 憲法を学び 憲法に学ぶ | 平成27年7月11日 (土) 16時～19時 | 橋本屋支店 (盛岡市大通一丁目7-7) | サロン9条 (憲法学習会) | 18人 |

平成27年度 岩手大学教育学部地域連携特別委員会 委員名簿

今野日出晴（委員長）
立花 正男（副委員長）
菊地 洋一
藁谷 収
山崎 友子
清水 茂幸
佐藤由紀男
田代 高章
塚野 弘明
大河原 清
山本 奨